



# 西野まさひと

活動報告 号外

ハッキリ言います! 市政にひとこと!

【ホームページ】<http://www.nishino1.com/> 【FAX】042-582-2866



## ● 二大政党制に対応した党改革が急務!

西野まさひと友の会では、先行き不透明な政局について西野議員の展望と取り組みについて取材し、「活動報告 号外」として特集します!

今、国政は二大政党制に向かって大きく歩みを進めています。選挙制度を中選挙区制から小選挙区制へ移行したことで、政治は二大政党制を選択したことになります。この制度は「政党間の政策競争によって国の将来を決定すべき」との考えです。今、自民党に願われるの

は官僚から脱却した国民が願う真の政策立案能力です。しかし、ハッキリ言って現在の自民党は、中選挙区制時代よりも政策立案能力が向上しているのか疑問な点があります。かつての中選挙区時代には選挙区内で自民党候補者同士がしのぎを削っていました。そのため、各候補者は党内の異なる派閥に所属し、同じ政党であっても政策を闘わせていました。一選挙区一候補の単独長期政権下で、派閥の存在意義も希薄になり、いつしか関係省庁を自らの政策ス

タッフのようにとらえ、政策実現の可否を幸い、私たちの選挙区では先の衆院選で地方議会での経験豊かな小川友一代議員が当選し、以来三多摩地域の課題に果敢に取り組み、すでに多くの実績を上げています。20号バイパスの延伸や永年の懸案であった立川南北道にも活路を開き、今、都市農政の改革に全力で取り組んでいます。何故、短期間のうちにこれだけの実績を上げることが出来たのか、それは、政策実現のために「どのようにすれば役所を

まず省庁に伺いをたてる状況を招いています。

### 現場主義の小川友一代議員に期待



## 今こそ自民党改革の時!



動かすことが出来るか」という発想と現場で培われた政治姿勢があるからだと思います。現在、衆議院では自民党の50%強の議員が世襲です。優秀な二世議員も多数存在しますが、現行制度では、理想に燃える若者が国政に挑戦出来る機会は稀少です。

### 西野議員自民党日野総支部役員会で提言

今、政党が大きな力を持っています。だからこそ候補選定段階からオープンで開かれた政党となるべきです。この部分がブラックボックスであってはいけません。選挙に強い候補を選ぶことも確かに大切なも

示すべきです。そこで、まず党を支える総支部から改革をスタートすべきです。自民党日野総支部においても、支部長を兼ねる都会議員候補の選任は手順・プロセスを明確にし、多くの党員が参画して進めていくことが大切であると主張しておりましたが、今回から役員会を開き候補の選任が行われました。政党の役割が大きくなるなか、さらにオープンで活発な議論が行われる総支部づくり、そして多くの市民が意見参加出来る体制づくりが急務です。